

令和2年7月29日

総合教育会議 会議録（概要）

（令和2年度 第1回総合教育会議）

開会 令和2年7月29日（水） 15時00分
 閉会 令和2年7月29日（水） 16時40分
 場所 西宮市役所本庁舎8階 特別会議室

出席者	西宮市長 石井 登志郎 教育長 重松 司郎 教育委員 側垣 一也 教育委員 長岡 雅美 教育委員 藤原 唯人 教育委員 山本 幸夫	副市長 北田 正広 副市長 田村 比佐雄 政策局長 太田 聖子 教育次長 坂田 和隆 教育次長 佐々木 理		
事務局	職	氏名	職	氏名
	こども支援局長	時井 一成	教育総括室長	薩美 征夫
	政策局参与	安井 洋一	教育企画課長	吉田 巖一郎
	政策総括室長	楠本 博紀	学校教育部長	漁 修生
	政策総務課長	安座間 昌三	学校教育課長	木戸 みどり
	政策推進課担当課長	岡崎 州祐	教育研修課長	木田 重果
	政策総務課係長	時岡 誠治	教育研修課担当課長	谷口 麻衣
	政策総務課主事	池田 愛		
傍聴者数	15名			

令和2年度 第1回総合教育会議

日時：令和2年7月29日（水）

於：西宮市役所本庁舎8階

特別会議室

開会 15時00分

◆オンライン授業について（※コロナ事態に付随して実施した内容について）

側垣委員

- ・一人一人の家庭にどのように情報を伝えるかが課題。なぜならば、特に低学年の場合、親がついていないとなかなかきちんとできない。その点について、どうすればきちんとできるか、家庭での取組みがどうであったかの検証が必要。
- ・家庭でインターネットに接続できない3%（約1,000人）に対して、どのようにきめ細かく対応するかも課題。要はいかに家庭内の環境を整えるか、ということである。

藤原委員

- ・オンライン授業は往々にして未来的イメージで語られることが多いが、それほどものだろうか、本当にさまざまな課題の解決策たりうるか、と感じている。
- ・実際のところ、義務教育をオンライン授業で実施したとして、子供が家の中で授業をきちんと受けられるかという点、これは親がつかないと無理である。
- ・そもそも授業は単なる知識の授受だけにとどまらず、人的な関わりがある点が大切なのではないか。
- ・そういう意味では、オンライン授業は一斉休校のような非常時の補完的手段に留まり、根本的な課題の解決策とはいえないと思う。

佐々木次長

- ・ 新型コロナから得られた教訓は、普段当たり前のように思っていた「子供の声を聞く」「顔を見る」ことの大切さが示されたことだと思う。手紙や電子メールだけでは得られない安心感、人とのつながりの大切さを改めて感じた。
- ・ I C T機器を使って校内で授業を行うことと、ネット環境を使って学校と外部をつなぐことについては、その間に大きなハードルがあると思う。
- ・ 通信環境や、教師・子供・保護者の I C Tリテラシー、著作権や個人情報などの配慮すべき事柄などがそれにあたる。
- ・ 公教育である以上、最低限の条件はそろえる必要があると思うが、そのことばかりこだわっていては何事も前に進まない。
- ・ モデル的な先行実施もしていきながら、そういったことをクリアしていくことが、私たちに課せられた命題だと思っている。

石井市長

- ・ ご意見としていただいたのは、リアルな授業がベストということ。
- ・ ただ、現在はいわば非常時でもあり、その補完策としてのオンライン授業の役割はあるのであり、オンライン授業にむけた環境整備や取り組みは進めていく。

◆ G I G A スクール構想について

藤原委員

- ・ 先ほどの教育委員会からの G I G A スクールのプレゼン内容についてはポジティブに受け止めている。元々の趣旨としては素晴らしいものであり、これこそ進めていくべき内容だと思う。
- ・ 一人一人に合わせた学習進度に対応できることが I C T 教育の理念である。

側垣委員

- ・プレゼン資料の11ページ目、「ICTを活用した学びの姿」に挙げられている「さまざまな学び」「個別化に適した学び」「開発的な生徒指導の実現」は、まさに必要なものであると思うし、期待している。

長岡委員

- ・そもそもオンライン授業は新型コロナのためにあとからついてきたもの。
- ・「さまざまな学び」「個別化に適した学び」「開発的な生徒指導の実現」の3本柱は必要なものだと考える。

山本委員

- ・教育分野におけるICT政策に異存はない。
- ・ただ、政策を具体化するときに、各校がその姿を共有できているかが問われる。

北田副市長

- ・各委員からいただいた「オンライン授業がすべてではない」という意見は、本当にそのとおりだと思う。現在のものはあくまで緊急対応であるという捉えである。
- ・結局ICT活用は、平時の学習の質を上げていくことが大切なのだと思う。さもないと、機械に使われてしまう、忙しさだけが増えてしまう、というようなことになる。どう使いこなすかが大切であろう。

田村副市長

- ・GIGAスクール事業は多額かつ幅広い事業である。全体をまとめて進めていくよう教育委員会にお願いしたい。

太田局長

- ・各委員の「オンライン授業がすべてではない」という意見に賛同する。
- ・先に指摘のあった3本柱のようなGIGAスクールのメリットを生かしてほしい。
- ・ICT活用により、ひとりひとりの子供の理解力に合わせた個別学習が提供できる。
- ・コンテンツが豊富であるため、子供が興味を持ちやすい多様な材料を提供できる。
- ・調べものも容易になるので、子供たちが深く学ぶきっかけになる。
- ・校務の効率化により、先生が本来力を注ぐべきところに力を注げるようになることを期待する。
- ・課題としては、使いこなすための教材を提供する教員への研修や指導体制といったものが考えられる。
- ・また、ICTを家庭学習に使うためには保護者の意識も大切であろうと考える。

坂田次長

- ・ICT活用については、他の委員の皆さんの意見と同じ。効果的な学習にも校務改善にも、大きな効果が期待できると感じている。
- ・ただし、活用が進むにつれ、これまで示されなかった様々なものが新たにデータ化されることにより、業務がますます高度化・肥大化・複雑化してしまい、結果として、一向に過重労働が改善されない、むしろ悪化するといった現象が起きないか危惧している。教育委員会としては、そのようなことが起きないように、十分に注意してマネジメントしていかなければならないと思っている。

石井市長

- ・プレゼン資料にもあったが、歯科検診のデータ化などは印象的であり、分析することで活用可能性があると感じた。

佐々木次長

- ・こころんサーモなどでもデータが収集できるが、そうした取り組みは、児童・生徒の多面的な捉えにもつながっていくものとする。

重松教育長

- ・もともとコンピューターは情報の収集・分析のためのツールとして開発されたもの。それが近年は、コミュニケーションのツールとしても発展し、現在につながっている。
- ・そして、このツールをどのように使っていくか、どう学びに結び付けていくかが、いま課題となっている。
- ・そのためには、小さい時からの「学びの方法」を変えねばならない。つまり、コンピューターを使ってどのように調べるか、どのように情報を集めるか、といったことなどにもつながってくる。
- ・一方で、きちんと普段と同じ生活ができていないか、生活が乱れていないか、ということの大切さは変わらない。親も手伝いながら、日頃の生活を学校の生活に合わせる、規則正しい生活をしていくことが大切。
- ・オーストラリアは国土が広いので、なかなか学校に通うことが困難な場合もあり、無線での教育が従来から盛んであった。そのような他国の事例なども参考になる。
- ・ともあれ、コミュニケーション、親の協力、学校との連携、こういうことが重要。

藤原委員

- ・保護者との関係について、今までも子供の宿題をみたりするなど、学校と家庭のつながりはある。それがGIGAスクールを実現していく中で、どのように展開していくかが問われている。
- ・それから、タブレットを配布し、それを持ち帰らせるとなったときに荷物が多くなりたくないような配慮があってもいいのではないか。

石井市長

- ・常々言っているシチズンシップは「共助」という考え方でもあるが、新型コロナの中でなかなか共助ができなかったが、新たな共助の出番があるのではないかと
思う。

佐々木次長

- ・GIGAスクール構想は、Society 5.0に向けた国策の一部である。
- ・それにしても、あまりにも社会的な基盤が脆弱だと感じている。
- ・特別定額給付金の申請にしても、電子で行うより郵送の方が早かったというような話もある。
- ・社会的な基盤がしっかりしないと、学校教育だけが宙に浮き、絵に描いた餅になりかねない。
- ・学校教育だけではなく、社会全体で考えるべき問題と考えている。

重松教育長

- ・本日はありがとうございました。

閉会 16時40分